



三浦小学校

豊かさたくましさをもち

活力のある児童の育成

校長 田邊 誠郎

はじめに

本校は1年生10人、2年生5人、3年生12人、4年生7人、つくし学級1人、5年生10人、6年生6人の児童数51人、7学級の学校です。

学校教育目標

人権尊重を基盤に、自ら学び豊かさたくましさを持つ子どもを育てる。

- ◆ 確かな学力を持つ子ども
- ◆ 豊かな人間性のある子ども
- ◆ たくましい心と体を持つ子ども

校内研究について

〈研究主題〉

『主体的な学習活動をめざして、よく聞き、よく考え、豊かに表現する力を育てる。』

全国的に国語力に課題があることが報じられています。

本校でも、学習の基礎である「聞く力」「書く力」「発表する力」に取り組んでおり、児童朝礼での発表や学習発表会などでその成果も現れてきています。

しかし、学力テストの結果から、読む能力や書く能力に課題があることが判明しています。そこで、説明文を中心に国語力の向上に取り組むことが必要と考えられます。

算数科においては、数学的な考えや図形・数量関係などに課題も見られますが、基礎タイムやがんばりっ子「基礎学力定着の時間」での取り組みにより、スキルの向上が見られます。

教科を中心にしながら、信頼しあえる生活集団や学びあう学習集団づくりも学級・学校経営の中で構築することが大切と考えます。

【具体的な取り組み】

基礎学力の定着と学力の向上

- 児童に分かる授業の工夫と改善を行っていく。
- 支え励まし合える学習集団

を育てる。

● 家庭学習の充実と定着を図る。家庭学習の手引きを活用し、低学年30分・中学年45分・高学年60分を目標に努力していく。

● 国語力の育成。「読み取る力」、「聞く力」、「書く力」、「発表（表現）する力」、以上の4項目について具体的な指導を行っていく。

● 学習の到達目標を設定して指導を行う。算数・国語定着8〜9割を目標に徹底指導を行っていく。

● がんばりっこ基礎タイムの実施。朝読書を15分間実施し習慣化していく。5校時前10分間算数の基礎スキルの実施で定着を図る。

こころの教育

- 道徳教育の推進
- 人権教育の推進
- 読書の推進
- 正しいことばづかいの推進
- 生活集団づくりの推進
- 特別支援教育の推進

基本的な生活習慣の育成

- すすんで返事・挨拶・お礼の推進

- 心をこめて掃除や作業を行う
- 早寝・早起き・朝ごはんの推進

豊かな体験活動と交流学習の推進

- 人・事・物・産業・文化などとの出会いやふれあい活動
- 総合的な学習時間の活用

学力について

今年度の標準学力検査では、算数は期待正答率に達成しているが、国語については課題が残っています。

標準学力検査	本校正答率 (期待正答率)			
	2年	3年	4年	5年
国語	87 (81)	77 (77)	71 (73)	80 (71)
算数	98 (85)	87 (78)	77 (75)	82 (75)

開かれた学校づくり

学校・家庭・地域社会がそれぞれ役割を果たしながら相互に連携し、地域ぐるみで

子どもたちの教育に取り組むことを目的に「三浦の子どもを育てる会」を設立し、活動を行っています。

5月に総会を行います。11月に世代間交流の話し合いの実施、12月に世代間交流を地域の方と共にを行います。

3月にはまとめの会を実施します。

その他、月の1日は保護者が交通安全指導を行い、10日・20日は職員で行います。地域の方々も協力してくれています。

この3日間は、子どもたちは集団徒歩通学を行っており、全員がそろってから登校してきます。

また、児童会が中心になり、月の5日と15日は2箇所でありさつ運動を行っています。そして、学校に来ると職員室に挨拶をして教室へ上がっています。

このようなさまざまな取り組みが地域を元気づけ、心豊かな児童に育っていく役割を担ってくれているのではないかと思います。

拳ノ川小学校

子どもたちに確かな

学力と生きる力を

校長 松本 治彦

はじめに

本年度も黒潮町教育委員会から「学校運営協議会」の指定を受け、学校運営をより地域に開き、地域や保護者の皆さんと共に、学校教育目標にある「確かな学力」と「生きる力」を身につけ、生き生きと躍動する拳の子どもの育成」を目指し取り組みを進めています。

校内研究の取り組み

校内研究では、その主題を「生き生きと取り組み、ともに学ぶ子どもを育てる」とし、全員が授業公開を行っています。また、積極的に外部講師を招き、教材研究ならびに授業研究を行い、「聞くことを大切にしながら表現し合う授業づくり」を目指した取り組みを行っています。

授業スタンダードづくり

本年度は、日々の授業内容の充実と学力の定着を図る取

り組みとして「反復と習熟」「予習」をキーワードに「拳ノ川小学校授業スタンダードづくり」を目指して日々の授業の改善に力を入れています。

実際には、授業の初めに児童の側に立った「めあて」を書き、その「めあて」に沿って授業内容を工夫し、授業の最後にはその日の学習内容が分かる「まとめ」を書くことを意識して日々の授業を組み立てます。

そうすることで、一時間一時間の授業の流れや学習内容がより分かりやすく明確になり、児童が学習内容を復習し習熟を図る際にはノートを見れば学習内容がよく分かるようになり、学力の定着を図るには、何よりも日々の授業を大切に、積み上げていくことが大事になります。

基礎学力タイムの取り組み

基礎基本の確実な定着をめざし、基礎学力タイム（読書・計算・漢字）各10分間を校時表に位置づけて、「継続は力なり」を合い言葉に取り組みを進めています。

◆計算タイム

基礎計算（四則計算）の習

熟をねらいに、百マス計算や各学年の課題プリントなどを利用し、意欲化への評価や声かけの工夫をしながら継続的な取り組みを行っています。

◆漢字タイム

1日2〜3字の進度で各学年の新出漢字の学習をし、2学期後半から3学期にかけて、反復練習による習熟を図り、年度末に全新出漢字の定着率を検証しています。

◆読書タイム

読書は、全ての学力の基礎となるものです。本校では「毎日、集中して自分の好きな本を読む」をねらいに毎朝10分間の朝読書に取り組んでいます。また全校で選書会を開いたり、読み聞かせボランティアによる読み聞かせも行っています。



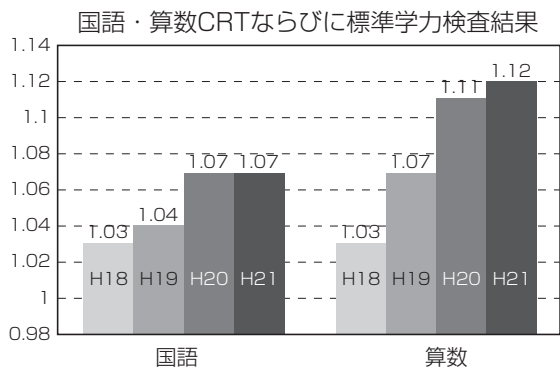
職員による「読み聞かせ」

昨年度からは、家庭で20分間読書をPTAの取り組みとして始めました。

さらに、本年度は読書環境づくりの一環として、職員による読み聞かせや縦割り班ごとに班長が中心になって行う読み聞かせも始めました。

その成果は、図書委員会が行う毎月の読書量調べにも見られるようになりました。

学力検査の活用



平成18年度から行っていますCRTならびに学力標準検査の全校通過率（全国を1とみた時の本校の得点率）の結果は、右表のように国語・算

数ともに全国の平均を上回り良い結果が得られています。しかし学年によっては課題もあり、基本的な生活習慣の確立なども含め、日々の取り組みの充実を図りながら改善に努めています。

地域や保護者の協力を得ながら

計画の段階から保護者や地域の方が参画し、拳ノ川小学校ならではの豊かな教育活動や体験活動の創造を目指して

- ①自然・環境コミュニケーション
- ②健康・福祉コミュニケーション
- ③学び・文化コミュニケーション

3つのコミュニケーションを組織し、地域の人材活用や教材化を図りながら、年間を通して学校・地域・保護者が一体となって活動を行っています。



地域住民である野坂さんからの地域民話「万六ばなし」